

CISAC 世界徴収レポート 2022 JASRACケーススタディー 日本語訳

「未来（あす）のインフラを築くプロジェクト」

過去5年間でデジタル分野（配信）からの収益が大幅に増加したことを受け、日本の著作権管理団体JASRACは、データトランザクションの増加やデータの正確性に対応するための様々なプロジェクトを通して、積極的にインフラ整備を進めてきました。

キーとなるプロジェクトの一つが、JASRACをはじめとするアジア太平洋地域の著作権管理団体が連携し開発をすすめる「Global Digital Service Data Exchange (GDSDX)」です。GDSDXは、各団体がグローバルデジタルサービス上で利用された自国のレパートリーの楽曲特定（マッチング作業）を事前に行い、そのマッチング情報を海外の他団体と共有するプロジェクトです。将来的にCISACに加盟する全ての音楽著作権管理団体が参加することを目指しています。

デジタルサービスで利用される音楽作品の量はますます膨大になっており、より効率的かつ人手をかけない方法ですべての音楽利用を捉え、特定する音楽著作権管理団体の能力に課題をつきつけています。JASRACにとって、本プロジェクトはこういった問題に対応するものであり、JASRACは開発費の提供を行っています。

このほか、クリエイターの音楽作品の実在性を証明することで、いわゆる「なりすまし」などの悪用からクリエイターを守るためのデータ交換プラットフォーム「KENDRIX」も、重要なプロジェクトです。KENDRIXは、2022年6月にクローズドβ版がリリースされ、2022年10月には正式リリースが予定されています。

リリース時、KENDRIXはクリエイターのオンライン本人認証システム（eKYC）を搭載し、JASRACへの入会申請や作品届の提出を可能にします。誰でも無料で利用することができます。

加えて、演奏利用に関するデータの質を向上させるため、「Audoo Audio Meter」の実証実験を東京都内の複数のDJクラブで実施しました。これは、フィンガー

プリント技術を用いて楽曲を自動判別する装置を利用したシステムです。

これらのプロジェクトはいずれも、「最新のテクノロジーを用いてデータの質を向上させ、メンバーに分配される使用料の額と精度を、費用対効果の高い方法で最大化する」という同じゴールを目指しています。

困難な2年間を経て、2021年度（2021年4月～2022年3月）の使用料徴収額は合計で1,167億3,000万円となり、2020年度と比較して40億8,000万円増加しました。これはJASRAC史上、2019年度に次いで2番目に多い徴収額です。

JASRACはコロナ禍にあっても高い水準で分配を確保しました。最新技術を活用しながら、音楽に関わるすべての方から共感いただける取り組みを進めます。
-JASRAC理事長 伊澤一雅-



©JASRAC

Kazumasa Izawa,
JASRAC President

JASRAC®

**PROJECTS TO BUILD
TOMORROW'S
INFRASTRUCTURE**

We secured a high level of royalty distributions despite the pandemic. Incorporating the newest technologies, we aim to conduct our business in a way everybody involved in music can appreciate.

Kazumasa Izawa,
JASRAC President

CISAC GLOBAL COLLECTIONS
REPORT 2022